

第1回日中資本市場フォーラムにおける  
遠藤金融庁長官によるオープニングリマークス

2019年4月22日

尊敬する中国証監会・易主席、方副主席、呉上海市副市長、本フォーラムを主催いただいた上海証券取引所の黄理事長をはじめ、日中の金融関係者の皆様、おはようございます。金融庁長官の遠藤です。本フォーラムの開催に当たりまして、金融庁及び日本政府を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

本フォーラムの開催は、昨年秋に日中首脳間で合意されたものです。本日、記念すべき第1回会合が、ここ上海において盛大に開催されることを、心より嬉しく思います。

まず、本フォーラムの実現にご尽力いただいた上海証券取引所をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。日中両国の経済界・金融界のリーダーが、こうして一堂に会し、両国の金融協力について議論できることは、誠に意義深いものと考えております。私自身、首脳合意の署名式に臨んだ当事者として、大変感慨深いものがございます。

さて、日中の経済関係は、アジア地域のみならず、世界経済全体にとって非常に重要であります。その中でも、金融は特に重要な分野であり、具体的な協力の進展が強く期待されているところです。

両国関係者の協力により、具体的成果も出てまいりました。先月には、日系証券会社の中国市場参入が実現し、日本政府としても大いに歓迎しているところです。また、ETFの相互上場についても、精力的な調整により迅速な実現が図られ、本日調印式が行われます。さらに、市場監視に関する当局間協力や、証券団体間の交流も強化されております。日本政府としても、こうした流れを一層進めていきたいと考えております。

また、わが国は、経済成長戦略に基づき、資本市場改革に積極的に取り組んでおります。先月末には、証券・金融分野と商品分野のデリバティブ取引をワンストップで取り扱うことができる「総合取引所」の設立に向けて、日本取引所グループ(JPX)と東京商品取引所(TOCOM)の間で基本合意が締結されました。中国においては、上海証券取引所に、イノベーション関連企業向けの「科创板(かそうばん)」が創設される予定と伺っております。

日中両国が、お互いに切磋琢磨しながら資本市場の改革を進め、イノベーションの振興や、持続的な経済成長に貢献していくことも重要と考えており、本日はそうした議論ができることを楽しみにしております。

日中関係は、昨年、平和友好条約締結 40 周年の節目を迎えました。この間、中国の金融・資本市場は著しい発展を遂げ、来年には上海証券取引所の設立 30 周年を迎えます。改革開放以降、日本政府及び金融機関は、中国金融・資本市場の発展のために、中国側と協同して取り組んできました。これからもその発展に引き続き貢献していきたいと考えております。

本年 6 月には、日本が議長国となって G20 会合が開催されます。習近平国家主席の来日も予定されていると聞いております。世界主要国のトップリーダーが日本に集まり、未来に向けた国際協力が議論される中で、金融分野を含む日中の協力関係も、より一層深化していくことを期待しております。

結びに、本日のフォーラムの円満な成功及び日中両国の更なる発展を心より祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。